

議事録

● 会議名：第46回中四国学生剣道連盟理事会（書面による持ち回り理事会）

意見募集開始日平成26年1月5日
意見募集締切日平成26年1月10日
議決要請送信日平成26年1月15日
議決締切日平成26年1月21日

● 構成員：39名

● 参加者：湯村正仁、渡邊道德、小倉 肇、藤原崇郎、木原資裕、榊 康守、福井悦郎、大城戸 功、草間益良夫、村井慎治、山神眞一、石井博貞、境 英俊、香川直己、竹内善一、廣畑栄三、宮本理幸、矢野宏光、河内 泉、青木亮祐、氏部崇之、矢野嵩晃、山田真理子、新濱華帆、井手隆介、高木春香、野中慧吾、城山太一、渡辺健史、安部一希、井内香里、磯邊夏紀、村上哲彦、大河優志郎、松川旭仁、岡本修司、河相直幸、小山 董 以上38名

オブザーバーとして、近藤裕樹

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。今回は持ち回り理事会として幹事長が文章の送信等を行った。

● 記 録

氏名：青木亮祐

E-mail：info@chushi.xsrv.jp（不明点はこちらへ）

Summary：

議題：今後のオープン大会開催の方針について

議事

1. 今後のオープン大会開催の方針について

報告者：青木亮祐

先ず、来たる平成26年2月9日に行われます平成26年度第1回全日本学生剣道連盟理事会において、去る平成25年10月12日の理事会で議題にあがりました平成27年以降のオープン大会を中四国、北信越、東北、北海道の各連盟において持ち回りで毎年開催するという方針について、中四国連盟の意見を報告することになっており、次の通り、先輩理事の方々、学生理事に平成27年以降の方針について御意見を頂いた。

- ・会場、経済面がクリアできれば賛成。
- ・4地区で廻して行うという風にきいていた。もし、そうであるならば中四国だけやらないという選択はできないと思う。他の3地区と足並みを揃えて行うということであれば自ずと行う方向で考

えるべきである。他の地区の動向などご確認をお願いしたい。

- ・中四国で開催可能なのは広島、岡山、松山くらい。この中でも広島がで開催するのが最善であるが会場確保の保障がないので、確保できなければ開催をパスできるというのはどうか
- ・賛成ではあるが、その場合昨年のように新人戦の時期が問題になってくる。

問題：新人戦開催は広島大学3回生（新幹事長或は女子部長）が担当して行われ
ている。昨年のように日程をずらしても、もしこの広島大学3回生が教育学部の者であった
場合、準備時ちょうど教育実習と重なり、大会日程を10月にずらして行うのは難しい。

提案：現在、新人戦を広島大学（幹事長）、リーゼミを香川大学（副幹事長）が担当している。

これを交代し、リーゼミを広島大学、新人戦を香川大学が担当する。それに伴い、中四
国学生剣道新人戦を高松市で毎年開催する。開催地域は、福山市と交互に開催する。

- ・オープン大会の中四連盟での4年に1度の開催は避けたいところですが、この大会を北信越と
東北だけに負担していただくのは、申し訳ない気がします。関東・関西・東海連盟は毎年の全
日本学生大会を主管していますし、九州連盟は西日本大会を毎年、主催しています。残りの中
四・北信越・東北・北海道連盟でオープン大会を4年に1度開催するのは、全日本学生剣道連
盟としての全体的なバランスから見ても、応分の役割分担かと思えます。
- ・ここまでの実績を作り上げた大会なので、極力継続していく方向で考えるべきだと思われま
す。四年に一度。中四国ブロックが担当。但し岡山ー広島を交互に開催県とすれば、八年に一回。
これなら、そんなに無理無く運営できるのではないかと考える。
- ・中四国学生剣道連盟が「定期的で開催する」ことに賛成です。
開催の間隔は「4年に1回」か「8年に1回」が考えられます。
しかし、毎年開催が決定すれば、他連盟とのバランスを考えて「4年に1回」にならざるえない
か。
- ・結果的には参加人数から運営まで大成功といえますが、開催意義を十分には理解できかね
る。永続して続ける、4年に1回中四国で担当することに積極しての賛成はしかねる。会場、交
通の便から広島以外は考えられないので広島の負担が多すぎるのでは。信州の折口先輩が来
年の視察に来ておられましたが、大きい会場を確保して、県外から学生役員を動員するしかな
ないと。将来性において問題の多い大会ではないか。
- ・一度開催し、赤字を出していない以上「今後はやらない」
理由を見つけることは難しい。
- ・学生もとても有意義であったと言っている。可能であれば、4年に1回の開催を検討す
ることも有りではないか。しかし、そうなると会場県の負担が大きくなり、交通の便等
を鑑みても、広島、岡山あたりが候補にあがってくる。開催県が承認するのであれば、
継続的な開催については異論はないが、開催県が無理であるという返答であれば、中四
国として難しいという見解を示すしかないのではないかと思います。
- ・いつもの大会では中四国の学生としか剣を交えることができないが、全国各地の学生と試合を
したり、試合を見たりと、とてもよい経験を積むことができた。オープン大会が中四国でも開催
されることになると参加しやすくなるので、ぜひ中四国地域でも持ち回りのローテーションに
参加し、4年に1回開催してほしい。今回のオープン大会開催において開催地である広島の剣
道関係者の方々には特に大きな負担がかかってしまったので、中四国のオープン大会の場
所を広島のみで固定してしまうのではなく、限られてくるが、開催できる環境にある他の県で

も開催するようにすれば負担は軽減されるのではないか。一つの県が負担を一手に担うことがないようにして、開催して欲しい。

以上のような意見が寄せられた。これをもとに以下の議決がなされた。

ほぼ満場一致で

「中四国学生剣道連盟としては平成27年度以降のオープン大会を中四国、北信越、東北、北海道の各連盟で持ち回りで毎年開催するという方針に賛成」
に決した。

以上第46回理事会の承認可決事項とする。

平成26年1月21日 持ち回り理事会